

令和3年9月

本町自治会 会員各位

本町自治会長 行徳真一

## 防災資器材の保管庫とカギ【**保管場所の周知**】

阪神・淡路大震災の教訓によれば、生埋めや閉じ込められた際の救助は、自助・共助が97.5%、消防などの公助は2.5%でした。

大地震が襲ってくる前に、自助・共助に必要な防災資器材の保管場所と倉庫のカギの場所をお知らせします。

市から貸与されている『防災資器材』

○保管場所 … 自治会館右横の二番目の倉庫の左半分です

○倉庫のカギの場所 … 自治会館の和室にぶら下げています

『防災資器材』は重くて、多くの高齢者は倉庫から取り出せず、取り扱いえません。しかし、本町に30数名住んでいる大学生、高校生、中学生に高齢者がお願いすれば取り出し、取り扱いが可能となり、救助活動が早く進み多くの人を救助できるようになるのです。

できるだけ多くの会員が保管場所を知っていることが大切です。

ご家族で情報の共有をお願いいたします。

(防災担当)

裏面も参照

阪神・淡路大震災の教訓より

生埋めや閉じ込められた際の救助 【自助・共助の重要性】

自力で	34.9%	自助・共助 97.5%
<u>家族に</u>	<u>31.9%</u>	
<u>友人に・隣人に</u>	<u>28.1%</u>	
通行人に	2.6%	公助 2.5%
救助隊に	1.7%	
その他	0.9%	

1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書

阪神淡路大震災における建物等に係る被害

死亡者の <u>死因</u>	死者数の割合
家屋、家具類等の <u>倒壊による圧迫死</u> と 思われるもの	<u>88%</u>
焼死体(火傷死体)及びその疑いのあ るもの	10%
その他	2%
合 計	100%(5502人)
死者数は6434名、全壊住家数は約10万5千戸	

平成7年度版「警察白書」より

消防庁:阪神・淡路大震災について(確定報、平成18年5月19日)